ヨーロッパ通信 No.12 SEP. 2013

～*Messages from & to Konkokyo Believers in Europe*～

イギリス集会を開催！

ヨーロッパにお住まいのみなさま、お元気ですか？
６月に国際センターから森本幸恵次長が現地へ赴き、
ロンドンで集会を開催しました。
今回は、アメリカのポートランド教会在籍の、埋ノ江利沙先生も来て下さいました。

イギリス集会に参加して

ポートランド教会在籍　埋ノ江利沙

今年の４月 15 日、大変嬉しいことに、金光教国際センターから一通のメールを受け取りました。それは、国際センターの森本幸恵次長と一緒に、ロンドンでの集会を開催してくれないか、というものでした。私はお取次を頂き、仕事と家庭の都合がついたので、“Yes”と返事をすることができました。

イギリスでは、ママ会、信心おはなし会、祭典、宅祭の４つのイベントを開催しました。

６月６日のママ会はとても素晴らしい会になりました。ポートランド教会のサンデースクールで使っている子ども向けの拝詞集、誓いの言葉、家族についてのみ教えなどを紹介し、喜んで頂きました。

８日の朝は、信心おはなし会を開催しました。私は『天地は語る』130 番のみ教えについて話し、このみ教えを実践するために、いかに取次を頂くことが大切かを強調しました。そして「イギリスには教会や取次を頂く場所がないが、様々なメディアを使って取次が頂ける」ということを話しました。さらに、このようなテクノロジーがなくともお取次を頂ける金光様との繋がりを作ることを願って、自分の経験をお話ししました。午後には、森本先生と共に祭典をお仕えし、教話をさせて頂きました。

９日は、ある信奉者の家でお祭りをお仕えしました。その後、参拝者たちと素敵なランチを楽しみました。

イギリスの信奉者の信心を見て、私の目は大きく開かされました。彼らが祭典を仕え参拝できることに、また他の人と集まりお話しできることになんと深く感謝していることか。生活の中に信心を組み入れ、金光大神の教えを通してどれほどおかげを受けているか。ある女性は、「いつも子どもに信心を伝えたいと思っている。そして私が教会に参拝していたときのように、みんなが一緒に祈っている姿を見てほしい」と言っていました。また他の女性は「家で御祈念しているが、みんなと一緒に御祈念して、とてもスピリチュアルで感激しました」と語っていました。

今までは“世界布教”を、どこか大きな組織の仕事だ、と遠のけていました。そして私たち地域の教会は地域のコミュニティを助けることに集中すべきだと感じていました。ずっとそのように一生懸命御用してきましたが、しかしながら、神様は私に(私たちに)、それが同時にできるということを見せてくださったのです。私たちの心を本当に開き続け、神様の大いなる願いを成就するためには、どちらも必要なことなのだと、気付かせていただきました。

ママ会に参加して

オストロスキー あやさん

（左から２番目がオストロスキーあやさん）

イギリス･ロンドンでママ会という素敵な集まりが開かれました。今年が２回目で、私は前回参加できませんでした。今年は我が家を会場に５人が集まりました。アメリカのポートランド教会から埋ノ江利沙先生、日本の国際センターから森本幸恵先生、その他ロンドンに住む２人のママさんが来てくださいました。

初めにみんなで金光様に御祈念をしました。その後、お茶をしながらおはなし会をしました。最初に森本先生がおかげのお話をされて、そこからみなさんのお話が広がりました。みなさん共通して口にされていたことは、ご家族のことでした。今回はみなさん同じような年代で、ご家族のお話は日本にいる私の家族ともダブりました。

特に話の題材があったわけはないのですが、時間が経つのを忘れるくらいいっぱいお話をしたり冗談を言ったり…その中でみなさんが神様に感謝する気持ち、おかげの気持ちを持ち続けていらっしゃることがよく分りました。

お教会で小さな子どもが泣いたり、大きな音をたてたりしてしまうと、やはり気にしてしまいます。しかし、このママ会ではそういう心配は一切なしでした。リサ先生が子どもたちに英語で金光教の御教えを歌にして教えてくださったり、庭で遊ばせたり、その間に親はお話や美味しいお菓子を食べて交流ができました。

イギリスには金光教のお教会がなくて心細く思ったときもありましたが、年に一回、先生方が日本やその他海外から来て下さり、心のこもった集会やママ会を開いてくださることが本当にありがたいです。

信奉者紹介コーナー

レネ・ブルゲスさん（ドイツ在住）

今回はドイツ在住のルネ・ブルゲスさんの紹介です。ブルゲスさんは、今年の４月に国際センターに連絡をくださいました。金光教との出会いや金光教の好きなところ、今後の展望についてお話を伺いました。

私はルネといいます。ドイツで生まれ育ち、現在21歳です。私は不思議なご縁で、金光教に出会いました。

私は15歳の頃、プロテスタントを信仰していましたが、キリスト教の神との繋がりを感じることができないという問題を抱えていました。そして２年間、自分の信仰を見失っていました。17歳の時、私は自分自身の神を探し始めました。最初は仏教を調べ、日本の禅や浄土真宗などを含めて、数年間仏教を学びました。しかし、時折仏教に疑問を感じるようになり、はたして神は存在するのだろうか？と、再び信仰を見失ってしまったのです。

そんな中、今年の春、私はインターネットで金光教の記事を見つけ、どんどん読み進めていきました。私はもっと情報を得たいと思い、金光教国際センターに連絡を取りました。国際センターは、私にいくつかの書籍を送ってくれました。私はすぐに、金光教の信仰と教えが好きになりました。たとえ信心していてもしていなくても、もしくは他宗教であったとしても、神様は全ての人を愛してやまない、そういう信仰なのです。

金光教は、今はドイツやヨーロッパには教会などの拠点がないとのことでしたが、私は国際センターにドイツ在住の信奉者の方はいないか訪ねました。すると、ドイツには教師になられた方がいるとのことで、古本清子先生を教えてもらいました。私は毎週のように、古本先生に電話をし、沢山の質問をしました。彼女は毎回、私の質問や、個人的な悩みにも辛抱強く親身になって答えてくれました。それと同時に、国際センターの紹介で、北米の先生方の中にも、私と話しをしてくれるグループができ、彼らも私の質問に答えてくれるようになりました。このような世界中からの助けには、本当に感謝しています。そしてしだいに私は、金光教を信仰している自分を感じるようになりました。

現在、金光教に関するドイツ語の書物はほとんどなく、金光教の教えが、ドイツやヨーロッパ各国で得られないことはとても残念です。そこで私は今、ドイツ語の翻訳のお手伝いをしています。まず『拝詞集』から始め、『天地は語る』や金光教の紹介文などを進めているところです。翻訳や文章についての議論には沢山の時間がかかりますが、この時間も大事な取り組みだと思っています。

私は、ドイツやヨーロッパの人々が神様から導かれ、私よりもより簡単な方法で、このお道の信心をしていける可能性を持つことを願っています。

私は天地金乃神様の存在に気付くことができました。神様は、教会のない地域にいる私にでさえ、手を差し伸べてくださったのです。神様の存在を疑ってさえいた私に、寄り添ってくださっているのです。私を救ってくださった神様に、深く感謝しています。

集会での教話より　　国際センター次長　森本幸恵

2013年3月下旬の朝7時頃、姉から「お父さんがくも膜下出血で倒れた」という連絡がありました。私は実家から離れて暮らしているので、すぐに駆けつけるようなことはできません。病院での検査と家族からの連絡を、もどかしく待っていました。

すると昼頃また姉から連絡がありました。詳しく話を聞くと、なんとくも膜下出血で倒れたのではなく、酔っぱらって転んで、頭をコンクリートか何かにぶつけたというのです。そのぶつけた衝撃でくも膜下出血が起こり、さらには脳挫傷と頭蓋骨骨折というような怪我をおっていました。レントゲンでは脳の左側が腫れあがり、頭蓋骨には 3 カ所亀裂が入っていたそうです。

その後、私もお見舞いに行きました。父は出先で転んだので、実家から 3 時間もかかるところの病院に入院しており、母が泊まり込みで看病していました。父は頭が痛むらしく、うんうんうなっていました。

私は大変なことになったなーと思いました。酔っぱらって大怪我をして入院している父、父に付き添って病院に泊まり込んでいる母、毎日片道 3 時間の道のりを車でお見舞いに行く姉、いつでも病院に駆けつけられるように仕事を一週間休んでいる兄。なぜこんなことになったのだと。それは、父がお酒を飲み過ぎて酔っぱらって転んだせいなのです。どうして、いい歳をして、わかってくれないのだと。以前にも酔っぱらって怪我をしているのに…。そういう気持ちになりました。家族もみんな同じ気持ちで、あきれていました。

しかし、一方では、いろいろと考えてみると、たくさんのおかげを頂いているなぁとも思いました。

父は転んだとき、友人と一緒にいたので、その方がすぐに救急車を呼んでくれました。一人だったら朝まで倒れたまま発見されなかったかもしれません。

また、その倒れたという知らせが実家に入ったのは、真夜中でした。ですから母も兄も姉もすぐにそろって病院に行くことができました。もし昼間であったなら、家には誰もいなかったかもしれません。

そして父は驚くことに 3 週間もかからずに退院し、今は何の後遺症もなしに普通に暮らしています。脳挫傷、頭蓋骨骨折という重傷だったのにです。奇跡だと思いました。

私が大切だと思うのは、父も私たち家族も、そういうおかげに気づかなければならないと思うのです。不満や混乱がある中にも、頂いているおかげに気づきお礼申し上げていくことが大切だと思います。

私たちはたくさんの神様のおかげで生かされて生きています。まずそのことに気が付くこと、お礼の心を持つことが必要だと思います。そして何か問題が起きてきたときには、何事も神様のおかげの中のことであるということを忘れずに、神様にお願いしていくと安心であると思います。

「ヨーロッパ通信」No.12 SEP. 2013 発行
金光教国際センター 〒113-0033 東京都文京区本郷 2-17-11
Tel+81-3-3818-3701　Fax+81-3-3818-3793　E-mail kic@konkokyo.or.jp
http://www.konkokyo.or.jp/eng/kic/